

「すくらむ」の基本的視点

北海道教育大学 旭川校
安達 潤

「すくらむ」が作成された背景(1)

- 育ちの気になる子ども達が増えている。
子ども自身の問題として／家庭の問題として
- 就学前の子育て支援や発達支援の取り組みが学校になかなかつながっていない。
- 就学後に発達の気がかりさが顕著になってくる子ども達がいる。

「すくらむ」が作成された背景(2)

- 子育て不安の中で、子どもの育ちの気がかりさに親が向かい合うために必要不可欠である「親への支援」が十分ではない。
- その結果、二次的な障害を抱えて、思春期や青年期、成人期に浮かび上がってくる人たちが少なくない。
- 地域で、子どもを、親子を、受けとめていくことが求められている。

「すくらむ」の考え方(1)

- 「障害」の有無、「診断」の有無にかかわらず、地域で生涯にわたって、その人らしく生きていける地域になりたい。
- 出生から社会的自立まで、子どもの育ちを丁寧に見守れる地域になりたい。
- 親自身が子育ての主役となるような地域、子どもが自身の育ちの主役となるような地域になりたい。

「すくらむ」の考え方(2)

- 子どもや親子の情報をつなぐのではなく、子どもや親子の理解者の輪を広げていく。
- 「障害特性」から子どもを観るのではなく、子どもの全体像・・・「よさ・できること」と「気になること」から子どもを理解していく。
- 具体的な子どもの現実の中に、支援の手がかりや手立てを探し求めていく。

「すくらむ」の考え方(3)

- 「環境」という視点の重要性・・・
子どもが示している困難さは、子どもの中だけにあるわけではない。子どもと環境の相互作用の中から困難さが発生してくる。
- 仮の視点の重要性・・・
診断名があったとしても、その診断名が示す障害像を“仮の視点”として、その子どもの現実を丁寧に観ていく。未診断の場合も、子どもの現実を見据えつつ、“仮の視点”としての「特別な困難さ」を手がかりに理解する。

「すくらむ」解説

“本人について”と“環境について”

様式6(子ども理解シート)と
様式8(個別支援計画)を確認しましょう。

様式6の「本人について」(1)

- 本人にほぼ一貫して認められる特徴。
(場面や条件に関係なく観察される特徴)
(観察される場面や条件がはっきりしない特徴)
- 「よさ・できること」では、例えば…
生活面
寝つきは早い、お風呂が好き、きれい好き
行動・性格・感情・感覚
穏やかな性格、走るのが速い、陽気
学習面
パソコンが好き、マンガが好き、暗記が得意
人との関わり・言葉・場面の理解
年下の子供が好き、一方的だが話し好き

様式6の「本人について」(2)

- 「気になること」では、例えば…
生活面
片付けが苦手、偏食が強い、夜型生活
行動・性格・感情・感覚
気分が変わりやすい、怒りっぽい
学習面
国語は苦手、身体を動かすことは嫌い
人との関わり・言葉・場面の理解
他者との関わりに消極的、思い違いが多い
- 「本人について」は支援計画の基本的な方向性を考える時の手がかりとなる。

様式6の「環境について」(1)

- ある環境で本人に認められる特徴。
(主に特定の場面や条件で観察される特徴)
- 「よさ・できること」では、例えば…
生活面
スケジュールがあれば規則正しく生活できる、
入浴直後は眠りやすい、手順表で料理可能
行動・性格・感情・感覚
穏やかに声かけすればイライラしない、
ほめると頑張れることが多い、
光り物の玩具で落ち着きを取り戻す

様式6の「環境について」(2)

- 「よさ・できること」では、例えば…(続)
学習面
時間をきめれば学習に取り組める、
漢字学習なら取り組める、
歴史図鑑を使って自分で学んでいる
人との関わり・言葉・場面の理解
活動内容を伝えておけば他者とかかわれる、
簡潔な言葉を使えば会話が続く、
場面の成り立ちを説明すれば理解できる、

様式6の「環境について」(1)

- 「気になること」では、例えば…
生活面
汚れが見えないと手洗いをしない、
好きな深夜番組の日は就寝が午前になる、
緊張するとトイレが近くなる
行動・性格・感情・感覚
ゲームなどで負けると気持ちを乱す、
B先生に注意されるとイライラしがち、
何もしていないときに爪かみをしがち、
予定が急に変わるとひどく不安がる

様式6の「環境について」(2)

- 「気になること」では、例えば…
学習面
 国語の読み取り問題には取り組まない、
 算数では当てられる前に答えを言うこと多い、
 「なにをしてもよい」自習ではなににもできない
人との関わり・言葉・場面の理解
 近くで友だちが大声を出すと怒る、
 「ダメ」と言われると気持ちを乱してしまう、
 友だちに誘われたいと集団に入らない
- 「環境について」は支援計画の具体的な
 手立てを考える時の手がかりとなる。

様式8の「本人への働きかけ」(1)

- 本人自身の変化を目指した働きかけ
 ただし…
 本人に強く指示する、本人の行動を無理に
 変えさせる、本人の意向を無視した働きかけ
 をする…などは絶対にしない。
 そうではなく…
環境調整をしっかりと準備して、活動に誘う、
 自分で気づくように働きかける、説明する、
 選択してもらう、などを行う。
- 本人の自発性の中で、本人の変化が
 起こってくるような支援を目指すことが大切。

様式8の「本人への働きかけ」(2)

- 例えば…
 1) 「身体を動かすことが嫌い」という課題には、
 a) 本人が好きな「身体を動かす遊び」をする
 機会を用意して… [環境]
 b) 本人を「身体を動かす遊び」に誘う。[本人]
 2) 「状況の理解が偏っている」という課題には、
 a) マンガなど本人がわかりやすい素材で
 状況をわかりやすく描いて… [環境]
 b) そのマンガを一緒にみながら状況の
 成り立ちを伝えて、理解を図る。[本人]

様式8の「環境調整の工夫」(1)

- 本人ではなく、本人の周囲環境への働きかけ
 例えば…
 スケジュールの提示、座席位置の工夫、
 タイマーの活用、場所の手がかりの掲示、
 支援ツールの活用、マイ教科書の用意、
 絵カードの使用、話す時の言葉の工夫
- 本人が自分を変える努力をしなくても、
 生活の中でやるべき活動がやりやすくなる
 ような環境を提供する支援。

様式8の「環境調整の工夫」(2)

- 例えば…
 1) 「“ダメ”で気持ちを崩す」という課題には、
 a) 違う言い方(「別のやり方をしよう」、「良い
 考えあり」など)を工夫して … [環境]
 b) 本人に自発的な修正を求める … [本人]
 2) 「遊びに熱中してトイレを忘れる」という
 課題には、
 a) トイレの時間を決めて、タイマーのセット
 で音が鳴るようにして … [環境]
 b) 本人にそれを伝えて自発的な気づきを
 求めていく … [本人]

実践に向けた「支援の手立て」

- 「本人への働きかけ」と「環境調整の工夫」は、
 その両方がセットで、うまく働き合うときに、
 効果を上げることが多い。
- つまり、本人が自分を育てる力を発揮しやす
 い「環境」を準備して、その中で、自分を育て
 る力を発揮することを誘いかけたり、促したり
 することが大切。
- うまくいったら、しっかりと評価する。
- そして、子どものやる気(自発性)を育てる。